

アピール文

新型コロナ危機は日本の構造的な問題を改めて顕在化させたが、その解決に向けたデジタル化の推進や、都市部から地方への新たな人の動きなどは、地方において挑戦の機会が飛躍的に増えてきていることを示している。

例えば、デジタル化の進展等により、人や会社の物理的な移動がなくても、大企業で用いられている仕組や、都市部のプロ人材のノウハウが、地方の企業でも直接導入できるようになりつつあり、デジタルの力をうまく使うことで「都市と地方」「大企業と中小企業」の差は、全体として小さくなる可能性がある。

また、あらゆる分野で新たなビジネスの機会が生まれるとともに、農業、小売業、製造業など既存の産業でもビジネスモデルが変わり、新たな価値が生まれている。さらに、大学や高等専門学校でAIなどを活用したスタートアップが数多く生まれているのは、デジタルネイティブな若者優位の表れと捉えられる。

加えて、時間や場所に捉われない多様な働き方が広がりを見せるとともに、解決すべき地域課題の存在や、組織の縦割りが少ない分リーダーシップが発揮しやすいと考えられる中小企業が多いことなど、地方で働くことが今まで以上に評価されやすくなりつつある。

地方創生は、いわゆる増田レポートによる地方消滅の危機感とともにスタートしたが、現在起きつつあるこうした変化は、挑戦への新しい選択肢を示しており、地方にも、若者にもオポチュニティは拡大していると考えられる。

このため、我々は、次に掲げるとおり、デジタルの力をうまく活用しながら、高いQOLを含め地域が持つ様々な資源や特性を生かしたLXローカル・トランスフォーメーションを実践し、地方を挑戦の場に変革していく。

- 我々は、LXの実践者として、地方にこそ挑戦の場があることを指し示し、若者等の果敢な挑戦や、経営者等が取り組む変革への後押しを推し進める。
- 我々は、LXの実践者として、経済成長の原動力となる挑戦心（アニマル・スピリッツ）を育む教育や、地方におけるスタートアップエコシステムを形成する環境整備に取り組む。
- 我々は、LXの実践者として、小さくても変化が実感できるデジタル実装の成功事例を生み出し、横展開するとともに、失敗の許容や十分な投資の確保を通じて、LXの大きな進展を図る。また、これらの積み重ねを通じて、地方におけるデジタル人材の育成に取り組む。
- 我々は、LXの実践者として、全国津々浦々における情報通信やデータ連携等のデジタル基盤の整備に取り組む。
- 我々は、LXの実践者として、デジタル時代に適応したスキルが身に付くリスキリングの実施や、成長分野への労働移動を促進するための雇用慣行の見直しなどに国や経済界と連携して取り組む。

こうした地方による主体的なLXの実践と、デジタル田園都市国家構想をはじめとする国の政策等をうまく組み合わせることで、次代の日本を創生する力強い成長につなげていく。